

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和2年度
福島県意見交換会(第3回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2021年2月5日

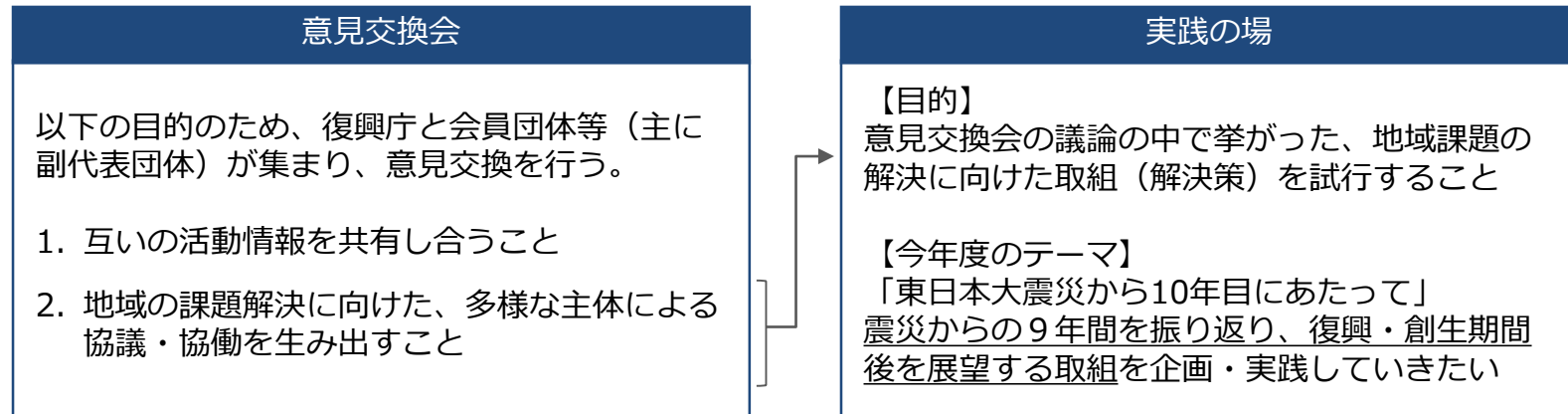
● 目次

1. 意見交換会の概要
2. 実践の場の概要
3. 実践の場の開催結果
 - (1) 傍聴者の特徴
 - (2) 各分科会でのアウトプット
 - (3) 満足度
 - (4) 目標達成度
 - (5) 考えたこと・伝えたいこと
 - (6) その他
4. 次年度の協議会・意見交換会について
5. 意見交換

● 1. 意見交換会の概要

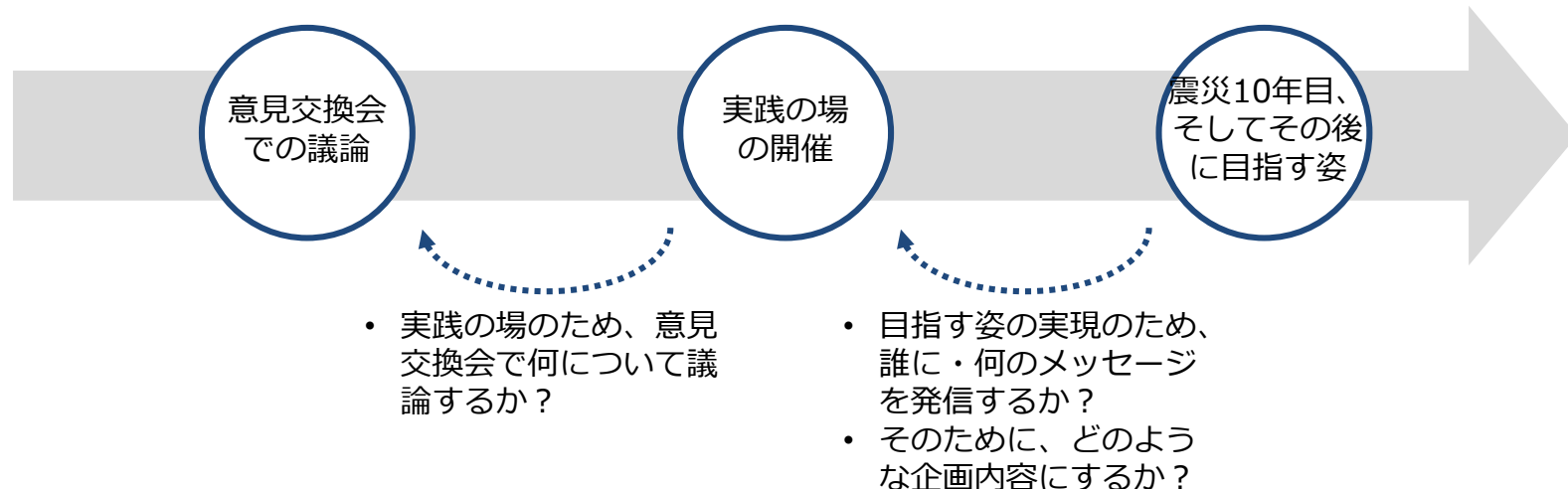
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

■ 意見交換会、実践の場とは



■ 今年度の方向性

東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



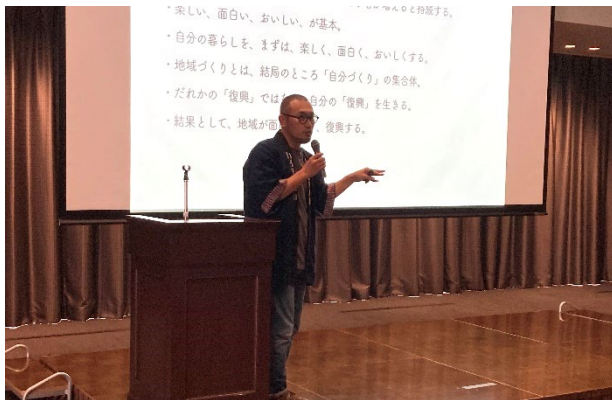
● 2. 実践の場の概要

これまでの意見交換会の内容を踏まえて、下記の内容で実践の場を開催しました。

開催日時	2020年11月20日（金）13:00～17:00	開催場所	双葉郡楡葉町（Jヴィレッジ）
タイトル	ふくしまプラクティス2020 — 実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦 —		
企画目的	<p>福島復興は10年目以降も長い年月を要するため、現在活動中の担い手だけではなく、若い世代を中心に新たな担い手が増えることが不可欠である。</p> <p>挑戦的な活動の中で課題に直面することは多々あり、課題にどう対処したのか、どう考えたのかという、担い手自身から生じてくるものに知見としての価値が秘められている。</p> <p>挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的とする。</p> <p>また、この機会を通じて前向きな気持ちで今も挑戦し続けている担い手の姿を発信することにより、県内外の、若い世代やかつて福島復興に関わった経験のある層の関心をひきつけることも目的とする。</p> <p>加えて、多様な担い手が集まる機会を活かし、各自の知見・技能を互いに共有することにより刺激を生じさせ、相乗効果を得ることも目的とする。</p>		
実施内容	<p>13:00～13:10 開会挨拶・趣旨説明</p> <p>13:10～14:50 プレゼン</p> <ul style="list-style-type: none">● 生業の再生 (株)小高ワーカーズベース 和田さん / (株)浜のあきんど 和泉さん● コミュニティ形成 NPO法人ザ・ピープル 吉田さん / NPO法人ビーンズふくしま 中鉢さん● 地域づくり (一社)葛力創造舎 下枝さん / 地域活動家 小松さん <p>15:00～16:30 意見交換（3テーマに分かれて実施）</p> <p>16:40～16:55 全体会（3テーマの意見交換結果の発表）</p> <p>17:00 閉会</p>		
規模	【登壇者・参加者】21人 【プレゼン傍聴者】当日視聴者 約50人（12月7日現在 延べ257回再生※）		

※ イベント終了後に動画を一部編集して再度公開したことにより、視聴回数がリセットされたため、webサイト上に表示されている視聴回数とは異なります

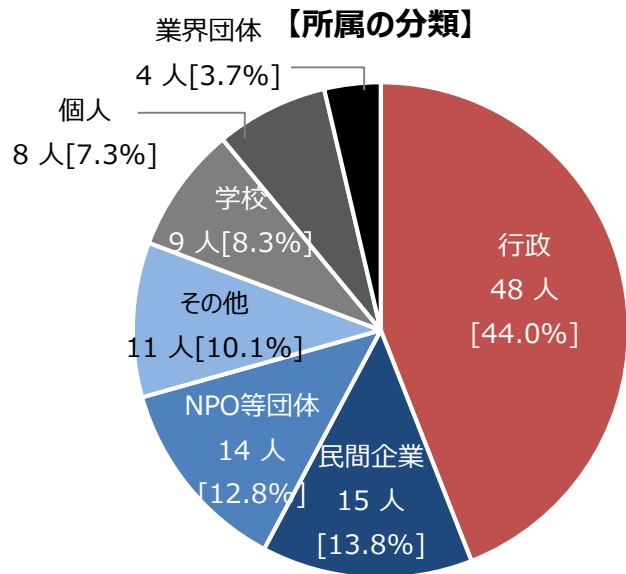
● (ご参考) 当日の様子



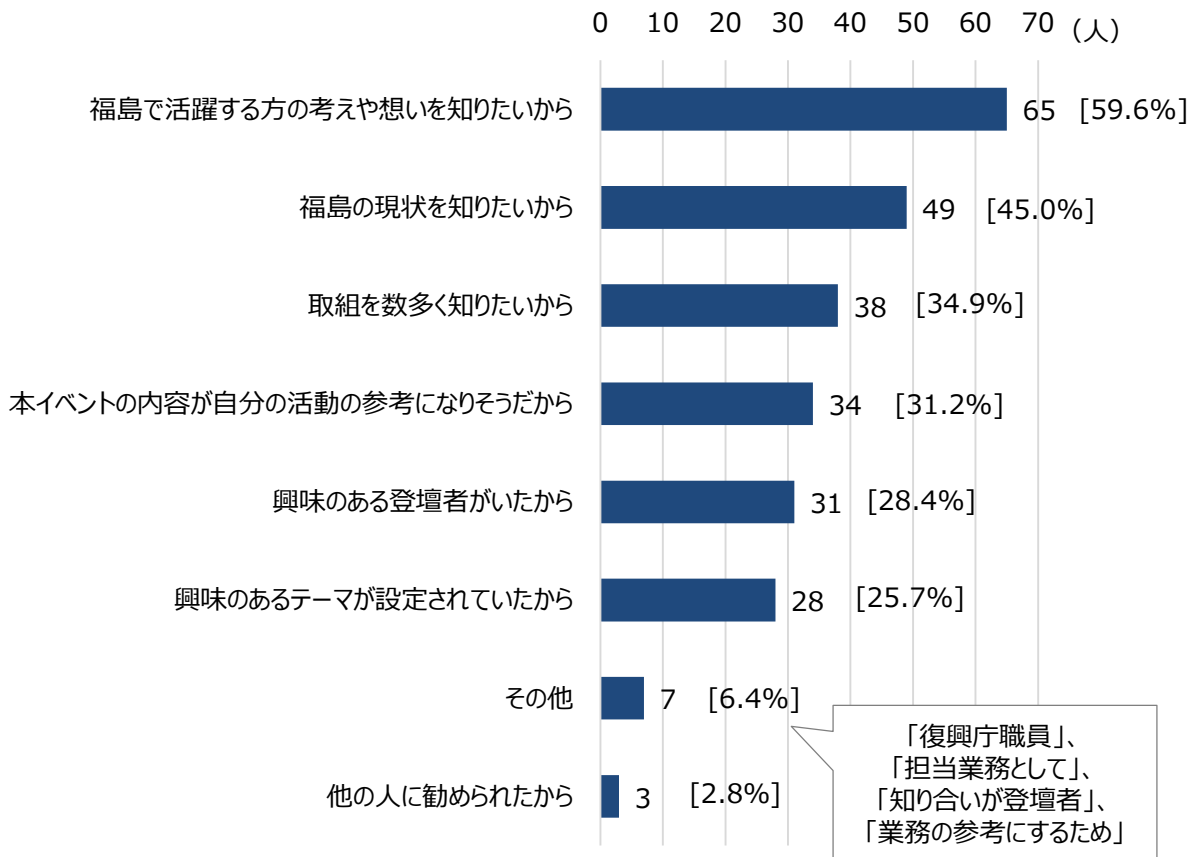
● 3. 実践の場の開催結果 — (1) 傍聴者の特徴

申込者109人の内訳を見ると、産官学さまざまな所属の方が傍聴して下さったことが分かります。このうち半数以上は「福島で活躍する方の考えや想いを知りたいから」という参加動機でした。

申込者（回答数：109人）



【参加動機（複数選択可）】



● 3. 実践の場の開催結果 — (2) アウトプット [生業の再生]

「生業の再生」では以下のような発言・議論がありました。事業の目的となる課題・ミッション・ビジョンの明確化や、多様な主体が前向きに支え合える環境づくりがノウハウとして考えられます。

当日の発言・議論の要点

- **被災地において、「糧」を得るための視点と工夫**
 - 地域が求めていることを考える
 - ミッションとビジョンの整合性を持つ（ミッションを実現させるための手段としてのビジネス）
 - 支えあえる環境づくり
 - 小さくスタート（続けることは必ずしも重要でない）
 - 無責任な人の100の意見より覚悟を持った1人行動が大事
 - 自分のために働いている。地域の一人ひとりが幸せのために働いていることが地域のためにつながる
- **3年後の生業とその可能性**
 - 福島の認知をさらに広げる（被災地と観光をどう親和性をもたせるのか）
 - 内目線と外目線のコラボ
 - 一人一人が自分らしく、誇りをもち、働ける場にする

ノウハウ

- 事業の目的となる課題・ミッション・ビジョンの明確化
- 従業員一人一人の仕事と事業の目的との結びつきの明確化・フィードバック（地域への貢献しつつ利益につなげる）
- 多様な主体が前向きに支え合える環境づくり

● 3. 実践の場の開催結果 — (2) アウトプット [コミュニティ形成]

「コミュニティ形成」では以下のような発言・議論がありました。やりたいことを中心に考えてやってみる、対等な関係での協働による巻き込み・フィードバックの獲得がノウハウとして考えられます。

当日の発言・議論の要点

- **コミュニティ形成の取組を進める際の教訓・ノウハウ**
 - ▶ まず自分と向き合う時間を持ち、何が必要か・なにをすべきかを考える（「やるべき」ではなく「やりたい」起点で）
 - ▶ 何が役立っているか・どの程度の支援が必要かを検証して改善（手伝いすぎない・やりすぎない）
 - ▶ 無理しすぎない、自分たちが楽しむ
- **各自の取組の今後目指すべき姿**
 - ▶ 受け続ける支援から自立した支援へ
 - ▶ ひとりひとりが関わり合う（足りないから助け合う）
 - ▶ 「福島で暮らせてよかったあ」と思えるように
 - ▶ 楽しみながら継続
 - ▶ 頼り・頼られ、互いに生きる人のつながり

ノウハウ

- コミュニティの一員として、自分がやりたいことを中心にまず考える
- 必要だということをやってみることによって、深い課題が見えてきて、活動が広がっていく
- 対等な関係性で協働することによる、コミュニティメンバーの巻き込み・フィードバックの獲得

● 3. 実践の場の開催結果 — (2) アウトプット [地域づくり]

「地域づくり」では以下のような発言・議論がありました。自分の興味があること・熱意を注げることを中心に取り組む、メディア活用、場の目的を限定・固定化しすぎないことがノウハウとして考えられます。

当日の発言・議論の要点

- **「地域づくり」**
= その地域との接点をつくること、接点を持てる“場”をつくること
- **どんな人を、どう集めて、どう結び付けるかという工夫**
 - ▶ 各自のやりたいことファーストで考え、その実現のために計画・仕組みをつくる
 - ▶ まずは自分が一生懸命にやる、そこから人が集まって、結び付きが生まれる
 - ▶ メディア等を活用して主体的・積極的に発信する
 - ▶ 難しいことを簡単に伝える（遊び心）
 - ▶ 関係性をつくると何かが生まれ、その生まれたものを育てる
 - ▶ 「等身大」の暮らしづくり
- **次の世代の地域づくり必要なこと**
 - ▶ 地域で大切な仕事をしているのに光の当たりにくい人にも感謝
 - ▶ 自分がしてもらったことを次の世代に返していく
 - ▶ 地域づくりを担う人が集まる“場”（無目的・非排除）をつくる

ノウハウ

- 自分の興味があること・熱意を注げることを中心に取り組む
- メディアを活用して各取組をオフィシャル化する
- 多様な方が関わりが持てるよう場の目的を限定・固定化しすぎない

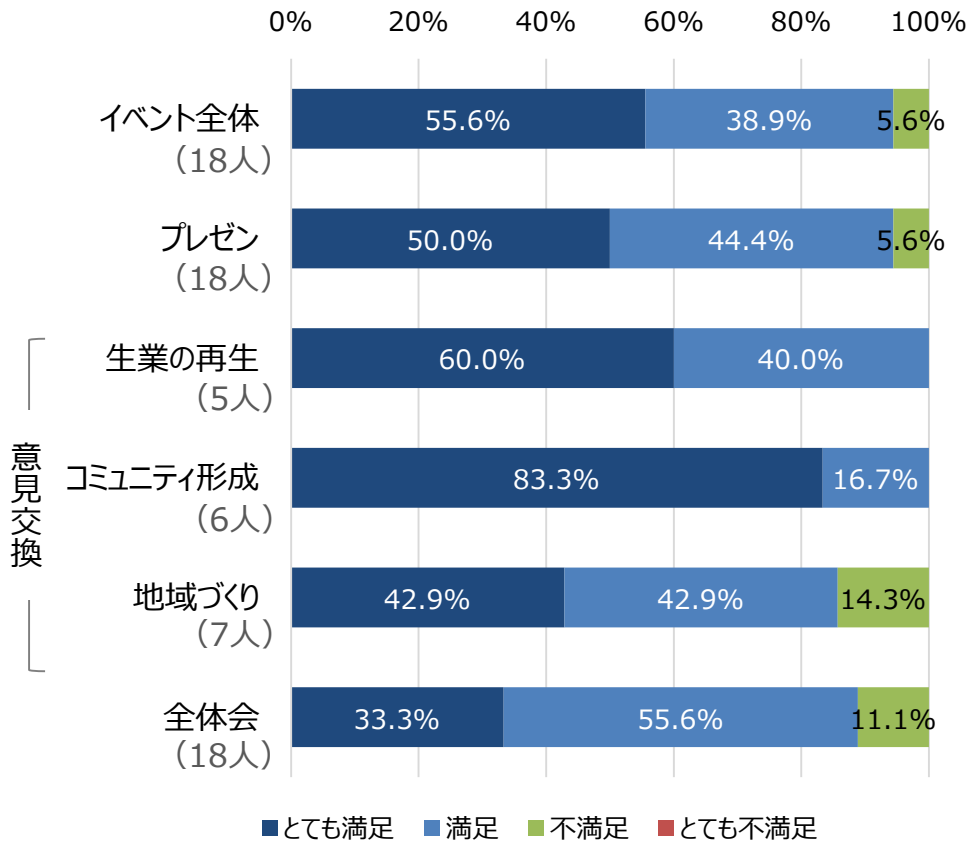
異質なものから多様性が生まれるため、自分と違う人・存在と出会う場所を作っていくことが「地域づくり」である

● 3. 実践の場の開催結果 — (3) 満足度 [参加者]

イベント全体やプレゼンに対する参加者の満足度は「とても満足」が半数以上を占めていました。意見交換は回答数が少なくばらつきがありますが、80%以上の方に満足いただくことができました。

参加者 (回答数 : 18人)

【満足度】



【満足度の理由】(要約を掲載)

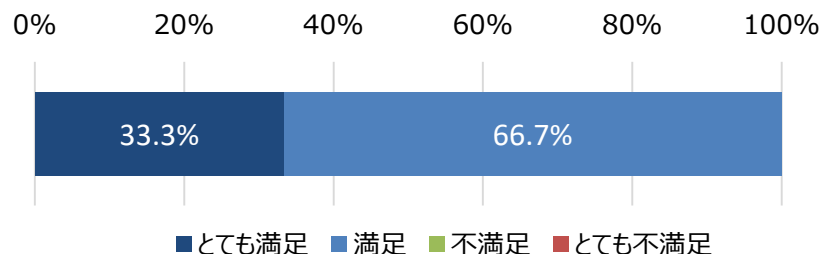
全般	<ul style="list-style-type: none"> 様々な話をきけて参考になった それぞれのイベント時間がもう少し長いと良かった 震災後10年の間に、様々な方の挑戦があり、「福島」のイメージや復興に向けた動きが良い方向に進んでいると感じる・知ることができたから
プレゼン	<ul style="list-style-type: none"> 自分のまとめ方をもっとブラッシュアップすれば良かった
生業の再生	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換のメンバーと交流できたことが良かった なりわいの違う人々の意見などを伺うことができた 参加者みなさんと価値観の共有ができた 多様な参加者の考え方にふれることができた
コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> 気づきの多い有意義なものだった 他地域の人との交流がよかった
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 違う意見が聞けたから 活動家のみんなと会えたこと まず無事最後まで参加できてよかった 地域で活躍している方の話は新鮮で学ぶことが沢山あった とても良いネットワーキングができたから テーマが広く、全体的に議論が深まらなかった
全体会	<ul style="list-style-type: none"> 発表がまとまり切らなかった 全体会での共有をもう少し丁寧にしてほしかった

● 3. 実践の場の開催結果 — (3) 満足度 [傍聴者]

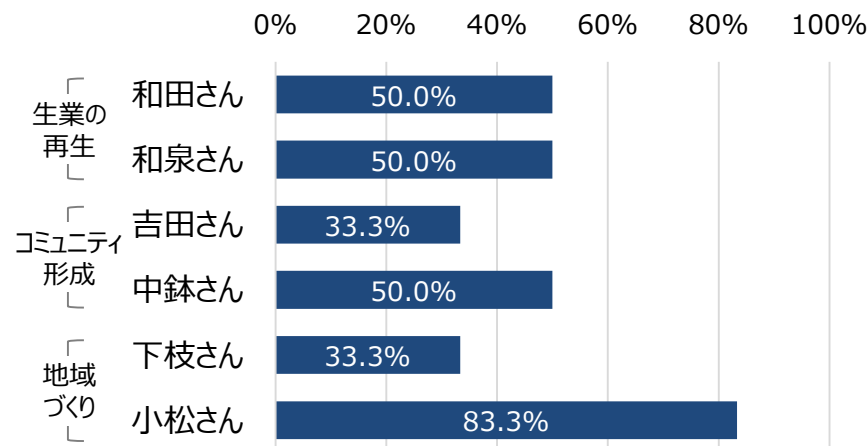
プレゼンに対する傍聴者の満足度は「とても満足」が33.3%、「満足」が66.7%でした。特に登壇者の熱意ある生の声を届けられたことに満足いただけましたようです。

傍聴者（回答数：6人）

【プレゼンの満足度】



【特によかった登壇者（複数選択可）】



【満足度の理由】(要約を掲載)

とても満足	<ul style="list-style-type: none"> 現場で活動されている方々の生の声を、一堂に会して聴けたこと プレゼンター熱意、率直さがこれまで見てきたいかなるプレゼンテーションに比して最高の品質だった 公的な価値に取り組む民間の個人だからこそこの視点は、行政や公的な機関に取り組む私にとって多くの気づきをいただけた
満足	<ul style="list-style-type: none"> 6名のそれぞれの方の、これまでの活動のお話がオンラインで聴けたこと 地域で活動されている方の生のお話を伺えた 改めて福島や地域について振り返るきっかけとなった 様々な活動をされている方たちがどのような経緯でここに至ったのか、どのような気持ちで活動をされているのかを知ることができ、とても良い経験となった

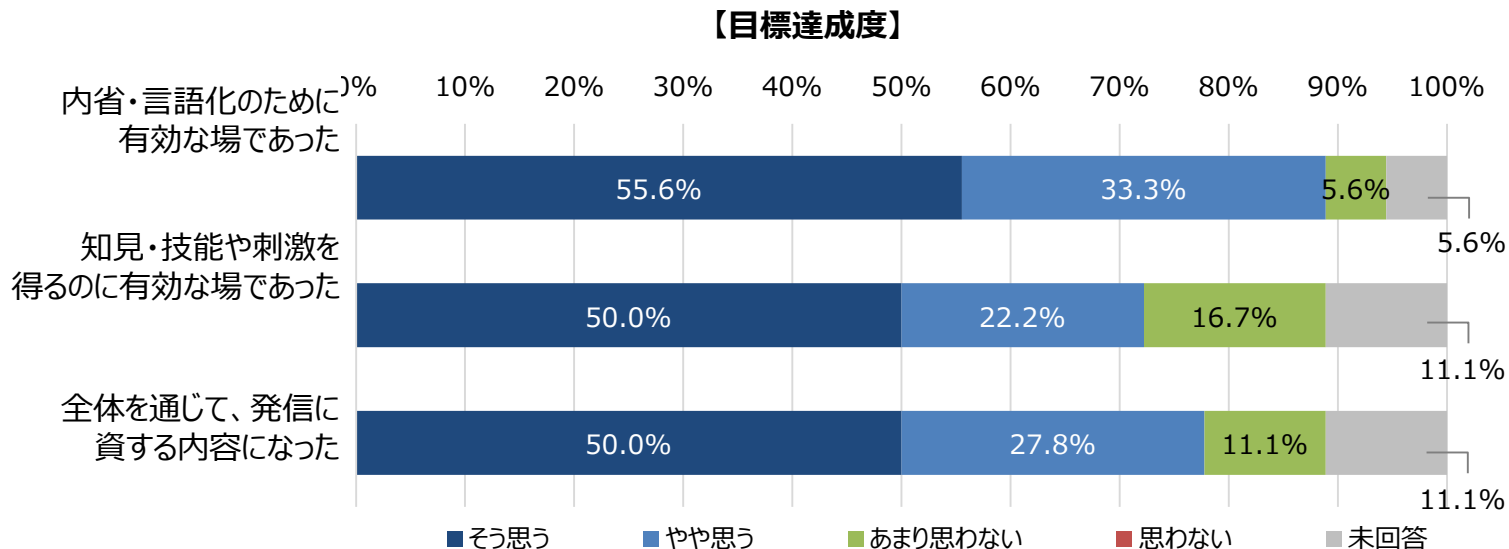
【上記登壇者を選んだ理由】(要約を掲載)

全員	<ul style="list-style-type: none"> 当事者であり、活動理念と現場の本音のような声が双方知り得た すべてにおいて、社会的課題において、いかに自分や自分の仲間たちが取り組んでいるかという視点で描かれていた点、絵空事感や他人事感がなく、また実績を積んでこられたが故の重みを感じた
和泉さん	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ形成、地域づくりにもつながる活動だった
小松さん	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題先行ではなく自分自身の動機を大事にするという話にドキッとした／新鮮であった 伝え方が上手であった

● 3. 実践の場の開催結果 — (4) 目標達成度 [参加者]

目標3点の達成については参加者のうち70%以上が「そう思う」「やや思う」との答えでしたが、意見交換の時間配分やまとめ方に関する改善点の意見もありました。

参加者 (回答数 : 18人)



【目標達成度に対する理由】(要約を掲載)

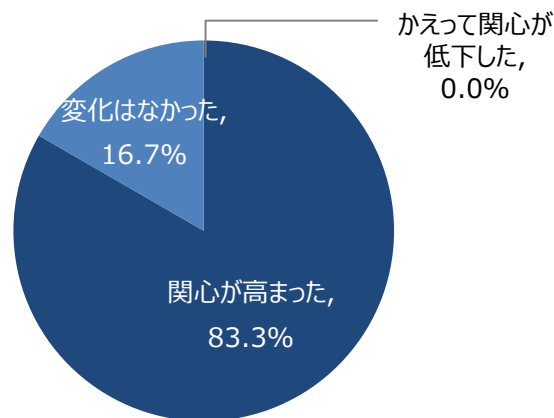
生業の再生	(特になし)
コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> 多様な復興活動を取り上げることができた 自身の事業を振り返ることができて良かった 所要時間が1グループあたりの人数で調整が出来ればなおよかった
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> 皆様の想いや活動を知ることで勉強になった 実践者の多くの方が単に実践したという事実だけでなくそれらを通じて深い洞察、思考に到達しようとしていることに驚いた 1人1人良い言葉があるだけにまとめると薄くなってしまった

● 3. 実践の場の開催結果 — (4) 目標達成度 [傍聴者]

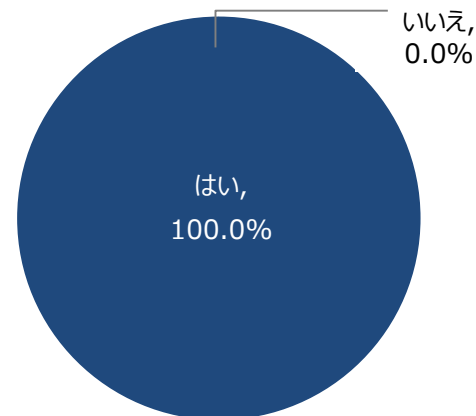
プレゼン視聴後、傍聴者の83.3%が福島について「関心が高まった」と回答し、さらに、全員が何らかの得るものがあったと回答していました。

傍聴者 (回答数 : 6人)

【福島への関心度合の変化】



【活動の参考になることや、何かアクションにつなげられることがあったか】



【関心度合の変化に関する理由】 (要約を掲載)

関心が高まった	<ul style="list-style-type: none">• おいしいお魚、おいしい酒という話で、すごく興味を持った• 様々な立場での活動が地域全体の元気につながることを再認識できた• これまでも福島について考えているつもりであったが、それぞれの取組をお伺いし、別の角度でも見てみようと感じたため• プレゼンターの方々のような方がいる福島県の今後に気がなった
変化はなかった	<ul style="list-style-type: none">• 元より浪江町での文化復興活動を行っていた

【得られたことの詳細】 (要約を掲載)

- もっと地域活動の方々につながってみたいと思えた
- 現地での活動のキモなど、実践しないと見えないこと
- 人が話を聞いて何かを感じさせるには、どのような話がよいのかを知った
- 毎年開催しているイベントや、イベントに向けて定常的に実施する地域での広聴活動に活かしたい

● 3. 実践の場の開催結果 — (5) 考えたこと・伝えたいこと

参加者が他者との意見交換を通じて、自身の活動に関わる新たな視点を得られたことが分かります。さらに、若い人や他地域にも伝えていきたいというご要望を頂きました。

参加者（回答数：4人）

全体を通じて 考えたこと・学んだこと	<ul style="list-style-type: none">・ 地域とは何かについて・ 様々な分野の方で考え方も違うんだなあと感じた・ 人それぞれ視点が違うので勉強になった・ 取組の広がり・種類がたくさんあることと同時に、達成していると感じるものがあり、その領域・次元に合わせた高次のステージがあってもよいと思った
考えたこと・学んだことを 今後どのように 活かしていきたいか	<ul style="list-style-type: none">・ 活動家のみんなに会いに行きたい・ 参考になる意見を実行してみたい・ 本県の高校教育の在り方を変えたい。今日の皆さんの取組は本県の教育的財産である。簡単に創り出すことができないソフト、知的財産。
意見交換の どのような内容を伝えたいか、 誰に伝えたいか	<ul style="list-style-type: none">・ 若い人に伝えたい・ 福島にもすぐに会える活動家がいる事を全国の地域づくりの方に知ってもらいたい・ 当日にコメントはなかったような気がするが、小松さんの「復興」というワードをとったとき、発信できるものを抽出できればメッセージ性が大きい

● 3. 実践の場の開催結果 — (6) その他

傍聴者からは意見交換に対して高い関心をお寄せいただいております。また、YouTubeでの配信については賛同の声もあった一方で、資料の映し方には改善点がありました。

傍聴者（回答数：6人）

意見交換への関心	<ul style="list-style-type: none">• 登壇者の方々の説明などは別の機会に視聴が可能だが（有名な方々なので）、皆さんがどんなディスカッションをするか大変興味がある• どのテーマも関心度合いは高い• プレゼンテーションの時間が限られていたので、もう一度話をお聞きしたい• 当事者として関心が高い• あれだけのプレゼンテーションをされた方々がどのような議論を展開されるか非常に気になる
イベント運営全般に関する意見	<ul style="list-style-type: none">• 短時間の開催で大変視聴しやすかった• オンデマンド配信で多くの方に見ていただければと思った• スライドを全体に見えたほうがわかりやすかった （できれば登壇者のアップは最初だけにし、話している最中は資料を引きで映してもらいたかった）• ディスカッションなどで登壇者ならではの気づきなども合わせて発信してもらいたかった

● 4. 次年度の協議会・意見交換会について

次年度は協議会および意見交換会を継続し、これまでに蓄積したノウハウを被災地内外に普及展開する方向性で検討を進めております。

次年度の事業概要（『令和3年度予算概算決定概要』（令和2年12月 復興庁）から引用）

■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて 優良事例の表彰やワークショップ等を通じて被災地内外に普及展開するとともに、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携や専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

次年度の協議会の方向性

- ・ 「新しい東北」官民連携推進協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組は継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する
（今年度はノウハウの総括に取り組んだため、この内容をさらに深掘り、広く発信していきたい）
- ・ 意見交換会の開催回数や実践の場の形式についても上記目的に照らし変更要否を検討する
- ・ 事業連携や専門家派遣等の重点施策も継続し、引き続き被災地内の復興支援にも取り組む

● 5. 意見交換

実践の場の開催結果と次年度の方向性を踏まえて、下記3点についてご意見ください。

1. 今年度の実践の場の良かった点や改善点についてご意見ください

2. 今年度の実践の場のアウトプット（特にノウハウ）を、次年度以降どのように活用できるか、アイデアをお聞かせください

※各団体を主語にする場合（①②）と、協議会を主語とする場合（③④）それぞれ

※アイデアの例を記載		どこで活用する？（活用先）	
		内で活用していく	外に伝えていく
誰が？ （主語）	各団体が	① <ul style="list-style-type: none"> 既存の連携について、目的意識が揃っているか、コミュニケーションが適切か見直して改善に取り組む 新たな連携先を探す際に、良い連携にするためのノウハウをもとに考える 	② <ul style="list-style-type: none"> 支援先の企業・団体に対してノウハウを伝授する 学生に対して事例とノウハウを伝え、身近に感じてもらい、復興／地域活動に対する参加意欲を高める
	協議会が	③ <ul style="list-style-type: none"> ノウハウを文章化し、メルマガ等のコラムとして定期的に会員へ配信する ノウハウのレクチャーと連携制度の活用法解説を行うセミナーを開催する 	④ <ul style="list-style-type: none"> 特定のノウハウをもとに、関連するテーマや地域を対象として来年度に実践の場を開催する （ノウハウの実践の場をつくる）

3. 上記③④を実現するために、次年度における意見交換会・実践の場のイメージについてご意見ください